

9月19日（火）彦根工業高等学校を訪問しました！

対談テーマ

企業等との連携による学びの充実と県立高等学校の魅力化について

企業等と連携した高度な実習や起業家精神の育成など、生徒の学びを深めるチャレンジングで特色ある教育活動を見聞し、企業や地域、大学等との連携による学びの充実や県立高等学校の魅力化について考えました。

訪問した教育委員

野村 早苗 委員 石井 太 委員 塚本 晃弘 委員



県立彦根工業高校について



令和3年度より文部科学省次世代地域産業人材育成刷新事業（マイスターハイスクール）の指定を受け、地元の産業界からCEO、産業実務家教員が赴任しています。企業における本格的なものづくりや企業水準の課題解決に向けて高度な実習を実施されています。またカンパニー制で社会に貢献できる企画を立案し、バイオプラスチック製品の開発を行うなど特色ある教育活動を実施されています。

委員：卒業後の進路について就職と進学の間割または工業高校から大学へ進学する上での課題はありますか。

学校：進路については6割5分が就職、3割5分が進学。専門科目を学ぶ分、普通教科の授業時数が普通科に比べ少ないです。大学への進学は本校の課題。放課後の時間に補習を実施しています。大学や企業と連携し、認知能力と非認知能力の関係を明らかにし、授業時数の少ない学習プログラムができないか検討しています。

委員：生徒が様々な実習に参加されているが、どのように評価をしていますか。

学校：ルーブリック評価を行っています。事前に到達度を明確にした評価表を生徒に示しています。実習では、教師だけでなく、企業側の先生にもコメントをいただいています。生徒自身が自分の頑張りを評価して、生徒が成長できるようにしています。

委員：企業の方から見て学校の組織、学校の文化に対して感じることはありますか。

産教：学校はフラットな組織。会社とは違います。それぞれの教師が各教科の授業の責任持ち、社長がたくさんいます。みんなが同じ方向に向かうのが難しいと感じました。

学校：マイスターハイスクール2年目に推進室ができて先生の意識も少しずつ変わってきました。

委員：主人公は生徒。この分野で活躍する気概を持った人材を育成することが大切ですね。

産教：産業実務家教員